

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	67	実施計画番号	121
事務事業名	集客力を高める食・農・自然観光の連携		事業開始年度 平成23年度
担当課名	観光推進課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等		関連事務事業	農畜産物のブランド化、観光PR事業
背景や経緯等	東北新幹線全線開業に伴い、観光客の受け入れには一層、魅力ある観光メニューが必要であるとともに、観光地としての魅力を維持していくためには、地域全体の魅力を増大していくことが求められる。		
事務事業の目的	食・農・自然・文化等の資源を活かした観光魅力を創造し、集客力を高める。		
実施状況	青森県総合販売戦略課所管「食と地域の魅力アップ事業」計8回の講座に参加し、地元産品を活用した料理及び土産品の開発と提供・販売等の検討を通じ、地元住民及び市職員等による十和田地域(十和田湖・奥入瀬)活性化にむけた体制づくりに取り組んだ。また、県境交付税を活用し、十和田湖を中心にした滞在型観光を推進するため、観光関連団体と連携して、滞在に資する商品の開発に取り組んだ。更に県補助事業を活用し、十和田湖畔地区での宿泊・買物支援事業、焼山地区でのイルミネーション及びアートイベント、市街地でのグルメイベントを実施し、新たな魅力創出に努めた。		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	5	4	9
	活動日数(日)	100	100	100
	人件費(千円)	18,000	14,400	32,400
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

観光企画係人数 観光企画係人数 観光企画・施設係人数

【事業費の推移】

※内訳は別添のとおり

事業費合計(千円)	23年度実績①	24年度実績②	25年度計画③
	20,933	16,523	97,466
うち一般財源	14,963	7,427	76,379
うち国県支出金	5,970	9,096	8,187
うち地方債			12,900
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	新たに創出した観光コンテンツ			
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
		個	47	13	40
	活動指標名②				
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
成果指標	成果指標名①	観光入込客数(観光地点計+イベント・行事)			
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度
		目標値	4,000,000	4,000,000	4,000,000
		実績値	3,166,529	3,497,368	
		達成度(%)	79%	87%	
	成果指標名②	宿泊者数			
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度
		目標値	500,000	500,000	500,000
	実績値	347,210	377,681		
	達成度(%)	69%	76%		

十和田市事務事業評価シート

整理No	67
計画No	121

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	3	存在意義の見直しの余地 1 / 4 平成27年度末に北海道新幹線函館駅開業は一層の誘客が図られる機会であるものの、観光客の目にとって魅力のない地域に映れば、単なる通過点となってしまうことから、現代に見合う魅力ある観光資源の開発は必要である。 観光振興を目的とする団体として十和田市観光協会及び十和田湖国立公園協会があるが、両団体とも職員体制が脆弱であり、市が主体的に取組まざるを得ない現状である。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	B	1			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	4	成果向上の余地 2 / 6 活動指標について、毎年、国や県の補助事業等を活用し、新しい観光資源開発に取り組んでいる。 成果指標について、観光入込客数及び宿泊者数ともに震災から回復傾向にあるものの、震災前の水準には戻っていない。 新しくやり始めるものの、資金の大半が補助金であることから、事業年度終了後に立ち行かなくなるものもあり、企画当初から収益性を見込んだ事業設計が必要である。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	3	コスト削減の余地 3 / 6 企画立案及び関係者との打合せ、事業費の支出は正職員が対応すべきであるが、情報の確認や調査資料の整理など一部は正職員以外でも対応できるものはある。 農畜産物のブランド化は新たな観光資源の開発につながる。 市観光協会及び十和田湖国立公園協会があるが、両団体とも職員体制が脆弱であり、市が主体的に取組まざるを得ない現状である。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 市全域を対象としていること、また特定の一般市民を対象としていないことから、受益及び負担に偏りは無い。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					14 / 20	改善の余地	6 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **14** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **6** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択)

効率性を改善して継続

方向性の理由

平成27年度末を予定している北海道新幹線函館駅開業及び平成28年度に予定している青森ディスティネーションキャンペーンに向け、国・県の補助事業等を活用し、総合的かつ全庁的な体制で戦略的な観光資源の開発に努める。

今後の具体的な取組方策と狙う効果

2年後を見据え、市の観光をけん引する食のトップコンテンツを開発するため、国又は県の補助事業を活用し、市(観光推進課・十和田産品販売戦略課等)、市観光協会、十和田湖国立公園協会、その他関係団体の総合企画による事業の実施を検討する。例：青森県総合販売戦略・食産業推進委員会

事業費内訳

	自主財源	国県支出金	地方債	
① 十和田ブランド向上プロモーション事業	14,963			
十和田湖観光推進広域連携事業【県境交付税】 (旅行商品開発、エコエリア発信事業等)		5,970		
	14,963	5,970	0	20,933
② 十和田湖観光推進広域連携事業【県境交付税】 (旅行エージェント広告経費支援)	2,126			
青森県市町村元気事業 (宿泊割引クーポン、お買い物券、旅行商品造成支援)	5,000	1,700		
東北新幹線全線開業効果支援事業 (奥入瀬イルミネーション事業)	200	2,100		
(十和田奥入瀬アートイベント事業)	100	2,400		
(ご当地グルメの祭典in十和田)	1	2,896		
	7,427	9,096	0	16,523
③ 十和田湖観光推進広域連携事業【県境交付税】				
十和田湖畔地区イベントの新たな魅力創出事業		2,400		
仙台バスラッピング事業		5,787		
奥入瀬焼山活性化事業	21,750		12,900	
北海道東北B1グランプリin十和田	20,056			
十和田湖観光活性化事業	9,573			
現代美術館5周年記念事業	25,000			
	76,379	8,187	12,900	97,466

平成24年度【集客力を高める食・農・自然観光の連携】の概要<観光推進課>

【奥入瀬イルミネーション事業】 事業費 2,300 千円

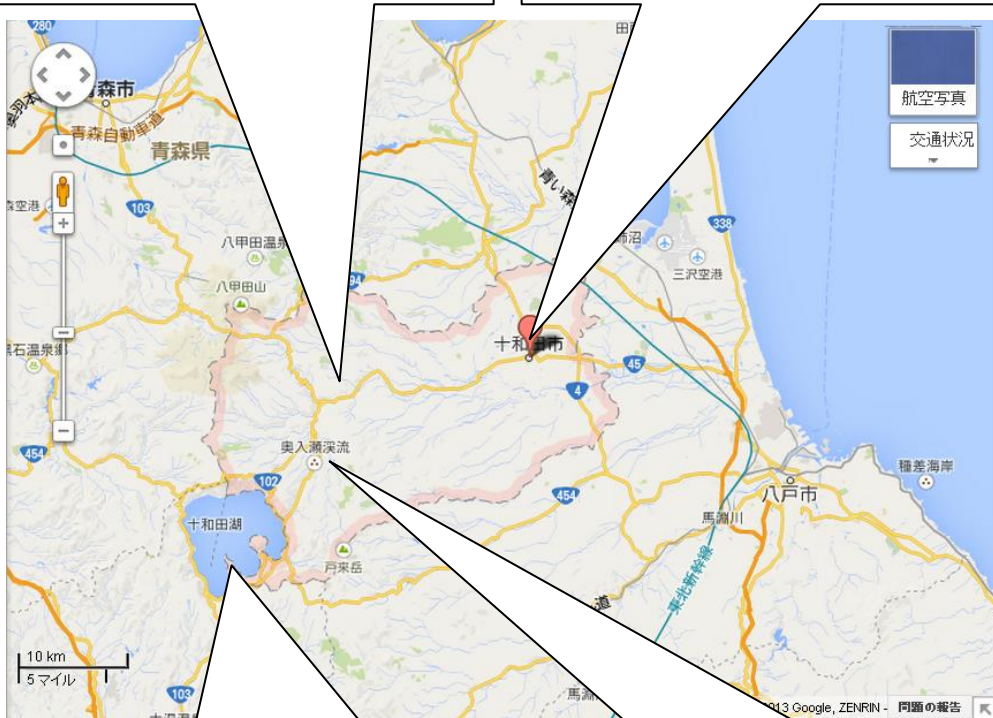
アーツ・トワダ・イルミネーション事業で培ったノウハウを活かし、焼山地区、スキー場南側駐車場をイルミネーションで飾り、11月25日から翌年1月27日まで、「ベジでムース」やホットりんごジュースを提供する誘客イベントを行い、33,000人が来客した。



【ご当地グルメの祭典in十和田】 事業費 2,897 千円

青森・秋田・岩手及び十和田のご当地グルメ団体を招聘し、11月3・4日に中心市街地で、まちおこしイベントを開催し、33,000人が来客した。

また、この事業により学んだノウハウが今年度開催した北海道・東北B1グランプリへとつながった。



【十和田湖畔地区誘客事業】 事業費 8,826 千円

十和田湖休屋、宇樽部のホテル・民宿で利用できる宿泊割引クーポン及び売店で利用できるお買いものクーポンを発行、応募者抽選、発送、換金する一連の誘客促進事業を行う十和田湖国立公園協会に補助を行った。

○5千円宿泊クーポン利用者 375名

○千円お買いものクーポン利用者 933名

(500円のクーポン×2枚)



【十和田湖奥入瀬アート事業】 事業費 2,500 千円

十和田湖奥入瀬溪流の玄関口の焼山地区の観光施設や宿泊施設において、10月17日から12月13日まで現代アートを展開するとともに、若手アーティストなど25名がアーツキャンプと題し、2泊3日間において奥入瀬を活用した創造的意見交換を行う。奥入瀬溪流館に約34,000人が来客した。



月	名称	支援内容	開始年度 (西暦)	概要	22		23		24		現在の課題
					来客数 (人)	市の補助金額 (千円)	来客数 (人)	市の補助金額 (千円)	来客数 (人)	市の補助金額 (千円)	
4	桜流鎚馬	開催経費補助	2004	「馬のまち」十和田市を代表するイベントとして、誘客促進及び観光振興を図るものである。女性騎手の流鎚馬大会は全国的にも非常に珍しく、注目度は極めて高い。	13,000	690	12,000	690	18,500	550	自主財源だけの運営
	とわだYosakoi 夢まつり(春)	開催経費補助	2001	県内外から参加する30チーム約1,000名もの踊り手が、パフォーマンスを繰り広げる。2011年からは時期を秋に変更され、春まつり期間中は市内の団体のみで開催される。	12,000	1,000	1,000	1,000	2,000		
5	太素祭		1949	疎水百選に選ばれている、十和田市発展の礎となった人口河川「稻生川」の上水を記念する例祭。	20,000		14,000		5,000		
7	奥入瀬ろまん パークフェス ティバル		1995	道の駅開設を記念して行われるイベント。道の駅おいらせ「奥入瀬ろまんパーク」の広大な敷地を利用した多くの催しは行われる。	15,000		13,000		13,000		
	十和田湖湖水まつり	開催経費補助	1965	十和田湖で行うイベントでは最多を誇り、開催場所となる休屋では花火大会が行われる。	80,000	1,000	64,000	500	41,204	500	自主財源だけの運営
	乙女の像 さわやかフェス ティバル		1994	「乙女の像」修復を機に、像を建立するきっかけとなった先人たちの功績を称えるイベント。	400		300		300		
	とわだ納涼まつり		2007	以前は市民納涼まつりとして行っていたが、現在の民間事業者主催となってからは今年度で7回目となる。毎年7月末に行われ、飲食チケットを購入して、ダンスや三味線などの余興を楽しみながら、夏の夕べを涼むイベント。	450		500		500		
8	十和田サンバ カーニバル		2010	「産馬通りでサンバを！」という市内有志の遊び心あふれるアイデアと、産馬通りに往時の賑わいを取り戻したいという思いから、平成22年に『産馬通りでサンバを踊る実行委員会』が結成され行われている。	—		—		15,000		
	うしの湯まつり		1987	土用の丑(うし)刻に湯に入ると向こう1年は病氣にかからないと云う習わしがあることから、毎年焼山地区(十和田湖温泉郷)で行われるイベント。	1,300		550		200		
	夏まつり				55,300		60,200		70,500		
	花火大会		1958	約4,000発を打ち上げる県南最大規模の花火大会。官庁街通りの一部が歩行者天国となっており、多くの露天が立ち並ぶ。	50,000		55,000		65,000		
	夏おどり		2007	浴衣を着て踊ろうを合言葉に「三本木小唄」や「駒っこサンバ」の曲に合わせて踊る盆踊りのほか、ゆかたの似合う女性コンテストもあわせて開催される。	2,300		2,700		3,000		

十和田市イベント一覧

<外部評価提出資料>

月	名称	支援内容	開始年度 (西暦)	概要	22		23		24		現在の課題
					来客数 (人)	市の補助金額 (千円)	来客数 (人)	市の補助金額 (千円)	来客数 (人)	市の補助金額 (千円)	
8	灯ろう流し		2008	先祖供養のため、毎年お盆の時期に行われていたが、1973年から稲生川整備工事のため中断していた。しかし、上水150年を記念して36年ぶりに再開した。	3,000		2,500		2,500		
9	秋まつり	山車制作補助	1949	幕末の三本木原開拓時代からあった三本木稲荷神社の秋祭り、市内各地で行われていた豊作祈願の秋祭りを1949年に十和田商工会議所をがとりまとめ、その後、十和田市観光協会の主催で豪華絢爛な山車や勇壮な太鼓車が目抜き通りを埋め尽くす。	225,000	3,450	240,000	2,720	250,000	2,261	町内の子どもが減ったことで、祭りに参加できない町内会が増えつつあり、山車の数も減っている。
	とわだyosakoi 夢まつり(秋)			前述参照					8,000		
	月がとっても青いから 全国カラオケコンクール		2007	まちおこしの一環として、十和田市が生んだ偉大な歌手「菅原都々子」の代表曲「月がとっても青いから」の全国コンクールを毎年開催している。2011年の第5回大会からは商工会議所が主催。	800		—		—		
10	十和田駒フェスタ	開催経費補助	1994	古くは南部馬の産地として、明治時代には軍馬補充部が置かれるなど、「馬」との関係が深い十和田市ならではのイベントで、期間中は流鏝馬選手権や官庁街通りで馬車運行などが行われる。	28,000	2,080	19,000	1,000	23,000	800	合併前の旧市時代には中核をなした「馬」であるが、現在当市の観光をけん引するトップコンテンツが十和田湖・奥入瀬に代表される「自然」と現代美術館とアート広場が展開する「アート」に替わる中で、露出を増やす独自の取組みが求められる。
	奥入瀬エコロードフェスタ	実行委員会負担金	2008	環境の保護と観光振興の両立を発信することを目的として開催され、奥入瀬渓流でのマイカー規制や地元十和田西高生の観光案内による「ボランティアガイドウォーク」などが行われる。	4,870	500	6,262	500	6,723	500	青樺山バイパス完成後の奥入瀬渓流の活用について
10	十和田湖ふるさとまつり		2005	十和田市の道の駅奥入瀬で開かれ、ヒメマスの塩焼きや十和田湖牛など、旧町自慢の逸品を販売される。また、特設ステージでは「沢田鶏舞」や「十和田水神雷太鼓」といった、地域ならではの芸能の発表も行われる。	8,500		10,000		10,000		
11	ひめます祭り		2009	東北新幹線全線開業を契機に新たな魅力として開催され、青森・秋田両県の郷土芸能ライブや十和田湖名産ひめますの一本焼きなど、秋の十和田湖や郷土の味覚を堪能でき、来場者には、「ひめます汁」等の振る舞いもある。	3,500		4,400		3,700		

十和田市イベント一覧

<外部評価提出資料>

月	名称	支援内容	開始年度 (西暦)	概要	22		23		24		現在の課題
					来客数 (人)	市の補助金額 (千円)	来客数 (人)	市の補助金額 (千円)	来客数 (人)	市の補助金額 (千円)	
12	アーツ・トワダ ウィンターイル ミネーション		2010	冬季観光の振興、経済の活性化を目的として、官庁街通り、アート広場を中心に約30万個の青色LEDを設置し幻想的な風景を演出する。	—		—		—		
2	十和田湖冬物語	開催経費補助	1999	観光客が減少する冬季における十和田湖、奥入瀬地区への一層の観光客誘致のため実施するイベント。JR東日本の青函連携事業においても主要商品の一つとなっている。	280,159	9,000	214,000	7,000	200,002	5,600	別紙のとおり
	とわだ雪見ラリー		1988	忘新年会が終わり、集客が少なくなる2月に行うことで、飲食店の活性化を目的とするイベント。	1,100		1,167		1,115		
	合計				921,356	19,520	662,097	13,410	660,911	10,211	